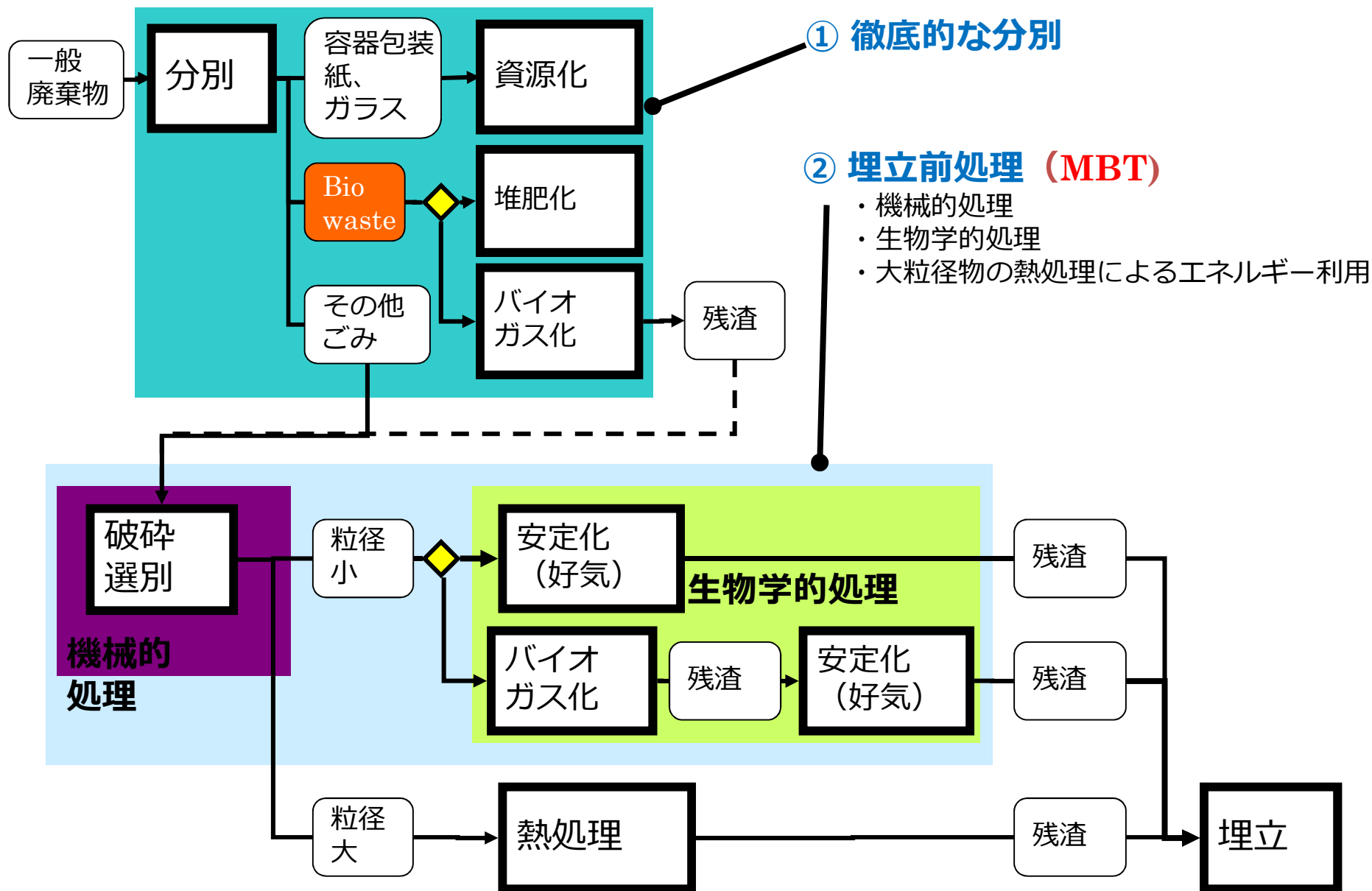


# ドイツ中小自治体の一般廃棄物の管理フロー



# ドイツの一般廃棄物の分別（共通）

- 1) Biowaste（緑の収集箱へ）・・・未調理の生ごみと庭ごみ
- 2) その他ごみ（Residual waste）（黒の収集箱へ）
- 3) 資源ごみ（Recycling waste） 容器包装のこと（黄色の収集箱へ）
- 4) 紙類（青の収集箱へ）
- 5) びん類（茶色, 緑, 透明, 青, それぞれ分けて排出）

なお, 缶, PETボトルは, 店頭回収.

# 廃棄物管理におけるMBTの役割

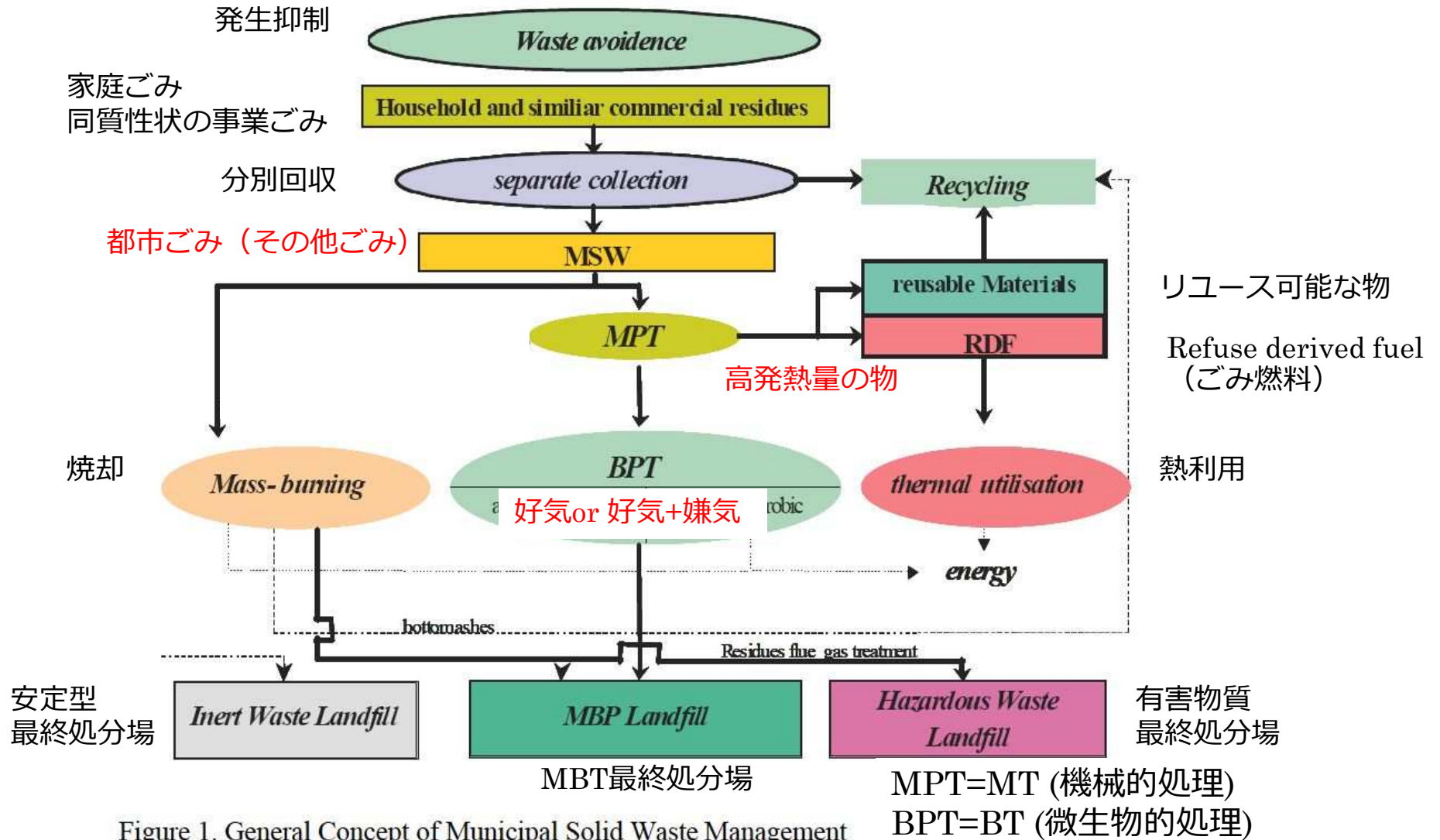
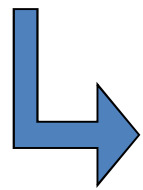


Figure 1. General Concept of Municipal Solid Waste Management

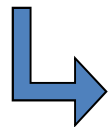
R. STEGMANN (2005), Mechanical Biological Pretreatment of Municipal Solid Waste (MSW), Proceedings of Sardinia 2005, pp.159-160.

# 生ごみリサイクルの必要性

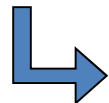
- ・ 容器包装リサイクル法によるリサイクル物の除去



- ・ 有機系廃棄物（生ごみ）の比率の増加



- ・ 未利用資源としての有機系廃棄物の活用



リサイクル

（堆肥、バイオガス、飼料等）

効果



- ・ 有機系廃棄物以外の廃棄物が扱い易くなる
- ・ 焼却量が減る、かつエネルギーロスが小さくなる

# ウェット物とドライ物に分ける意義

## 1. ウェット物の集約処理

可燃ごみを広域化に向けた性状へ

- 生ごみ分別

- ・可燃ごみ含水率低下
- ・可燃ごみ重量減
- ・可燃ごみの処理方法の自由度大



- ・運搬費
- ・受入側住民の合意
- ・焼却炉運転管理
- ・焼却施設規模

(分別困難地域：機械選別機の導入、  
デイスポージャー＋浄化槽汚泥の収集)

- インフラの集約（部局間連携による自治体財政負担の節約）

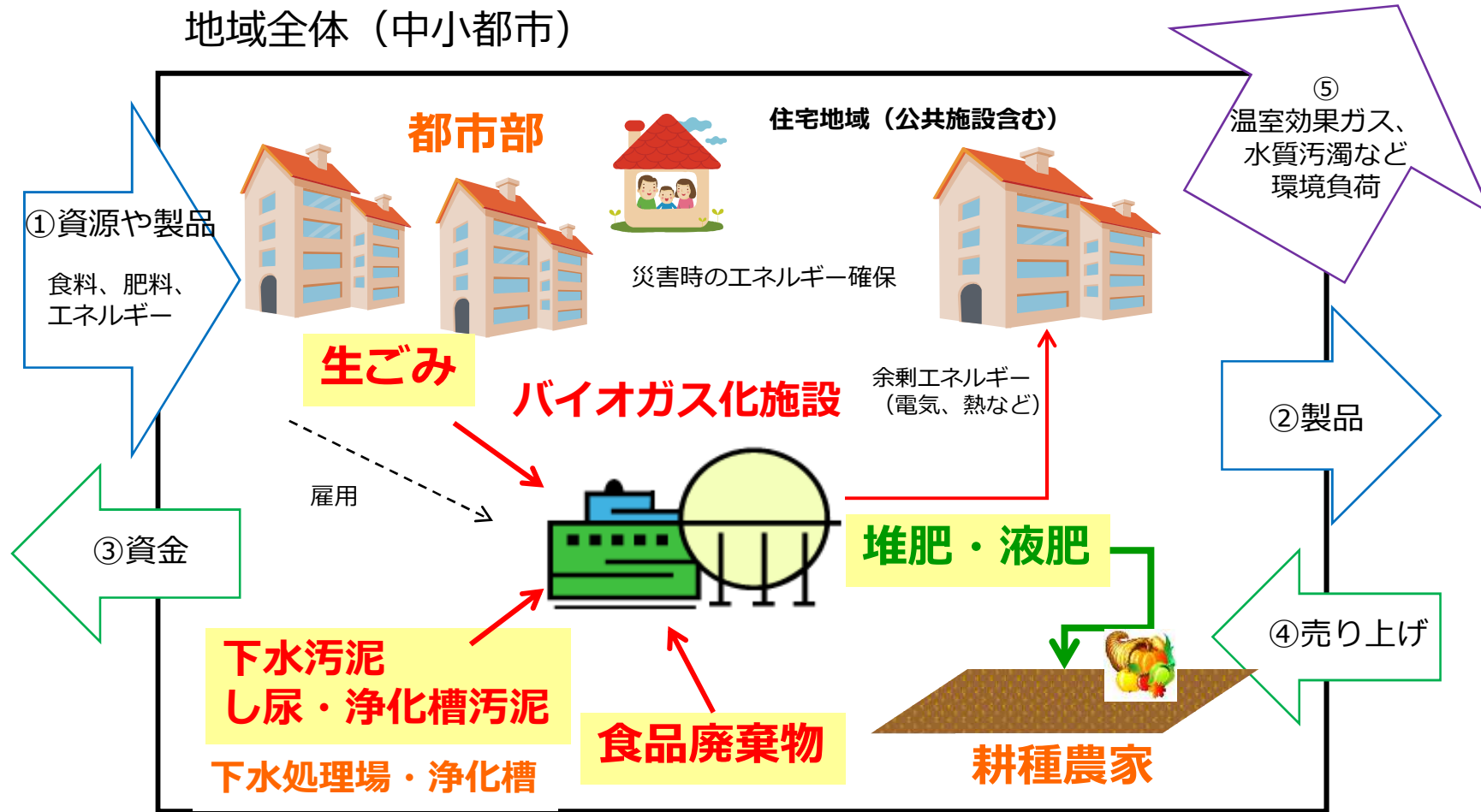
## 2. ドライ物の広域・集約処理

- エネルギー回収
- 他のバイオマスとの混焼（稼働率アップ）
- ごみ燃料化（地産地消のエネルギー源として）

## 3. 部局間・官民の連携

- 民間活用
- トータル社会コストの削減

# バイオガスプラントは地域の循環の要（かなめ）



資源生産性（④/①）の向上：食料・肥料・エネルギーの外部購入の節約による  
経費削減による競争力の向上

環境効率（⑤/④）：生ごみ以外の廃棄物のハンドリング向上（資源化、処理効率向上）

資金（③）流出抑制：新たな地域雇用の創出、災害時のエネルギー確保